提　　言

「私の子育て体験」募集

天野　　曄（天野小児科）

最近の十数年間，未成年者による忌わしい事件の頻発が世間を驚かせている。特に小中学生らによる想像を絶する残忍な事件もしばしばニュースになっている。

近代国家として発展し続けた日本は，敗戦後社会機構や教育理念の変更を余儀なくされ，長年試行錯誤が繰り返された。伝統的な家族制度や親子関係は否定され，その結果家庭の躾などはほとんど世界に類を見ない程までに崩壊した。少子高齢社会を確実に迎える21世紀の我が国において，育児支援という言葉は確かに親子に対して温かく優しい響きがあるが，現実は育児する親の労働を支援するためのもの，言い換えれば政治的な言葉とも理解されかねない。全国で広がりつつある延長保育や病後児～病児保育などは，十分な小児医療が可能な施設で，しかも地元医師会の協力を得て施行することが大切である。育児支援はまず視点の中心に子どもの幸があるべきで，親の就業支援が最重要目的ではない。なぜなら今後増加する老人の余生を豊かにしてくれるのは心身ともに健やかに成長した子どもたちだからである。

前置きが長くなったが，内藤先生の「育児は3歳までに」論と「3歳児神話」を混同するような育児論にはそろそろ終止符を打って，一般の親からの「私の子育て」実践記録を募集してはいかがかと思う。プロをもって自認している我々にとっても，思いもよらない新しい発想のヒントが得られる可能性が十分にあろう。

三人妹弟　　写真提供　天野　曄

Presented by Medical*Online